



Flyin' to the Sky

京都府立大学 国際センター ニュースレター

March 2023 Vol.16

目次

1. 国際交流の拡充に向けて躍進中です
2. ラヴァル大学生の日本留学体験談
3. 西安外国語大学生の日本留学体験談
4. 世界遺産都市研修2への参加体験談
5. レゲンスブルク大学中期留学への参加体験談
6. 留学生との交流ツアーが開催されました
7. 在京都フランス総領事が本学を訪問されました

国際交流の拡充に向けて躍進中です

2022 年夏以降、京都府立大学の協定校とは友好関係をさらに深めるため、その他の大学とは新たな交流関係の構築を目指し、山口美知代 副学長兼国際センター長が海外の大学を訪問しました。世界各地の大学との交流を拡充させることは本学の大きな目標の一つでもあり、今後、交換留学制度の拡充等が期待されています。



協定校のレーゲンスブルク大学(ドイツ)にて



協定校の漢城大学校(韓国)にて



釜山大学校(韓国)の総長と



檀国大学校(韓国)の国際センターにて



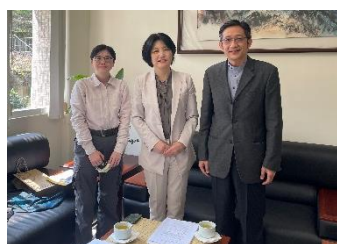
オクラホマ大学(米国)にて



テキサス大学ダラス校(米国)にて



ダラス カレッジ(米国)にて



国立政治大学(台湾)文学部にて



義守大学(台湾)の学長と



国立成功大学(台湾)の文学部長と

ラヴァル大学生の日本留学体験談

生命環境科学研究科 特別研究学生
マキシム・パロットさん



京都に到着した時、私にはある目標がありました。それは、京都のすべての寺社を訪ねる、というものでしたが、1ヶ月半が経った時点でも、約2,100もあるといわれる寺社のうち70ヶ所しか行けていませんでした。それで、私はこの目標の達成を諦めました(笑)。でも、私は飽きることなく有名な寺社を訪れ、琵琶湖近くの山々でハイキングをし、温泉にも入りました。そうです！私は京都での生活をとても楽しみました。

私は日本の文化と伝統について多くのことを学び、とても興味を持ちました。日本の文化はカナダや、私の生まれ故郷であるフランスの文化ともまったく異なるのですが、本当に大好きです！日本の食べ物は美味しくて、人々は親切で、神社やお寺はとても美しいと感じます。もちろん、日本に来た直後は自分のライフスタイルを日本式に合わせることに苦勞し、戸惑いもありました。でも、私が京都で暮らした3ヶ月間、府大の先生方、職員の方々、研究室の学生さんたちが助けてくれたので、最初に思っていたよりも簡単に慣れることができました。

最後に、私の研究テーマである、木材からのバニラの香り成分の合成について、良好な結果を得て目標を達成することができたことは最も大きな収穫でした。(原文の英語を事務局にて和訳。)

事務局補足：パロットさんは、京都府立大学の協定校の1つ、カナダのラヴァル大学からの留学生です。コロナ禍の影響で約1年半以上、辛抱強く待つようやく日本への留学が叶いました。

西安外国語大学生の日本留学体験談

2019年9月から、協定校である西安外国語大学の留学生として、京都府立大学の文学部 日本・中国文学科の研究生になりました。文学専攻の私にとって、有名な文化都市である京都に留学することは夢であったため、とても嬉しく思いました。

しかし、初めての海外生活はやはり不安だらけでした。何もかも知らない最初の頃には、いつも慌ただしくしていたのですが、幸い、優しい先輩たちや先生たちはもちろんのこと、周りの人々からもたくさんの手助けをしてもらい、留学生活にも少しずつ慣れていきました。

京都府立大学で、日中両国の文学、特に古典文学の研究に没頭しました。恵まれた自然と人文環境のもとで無事に卒業し、そのまま京都府立大学 大学院 文学研究科(国文学中国文学専攻)に進学しました。今から考えると、三年半の時間はあっという間でした。コロナ禍で、その中の三年間はずっと母国へ帰国できなかったのですが、一方で日本を満喫する時間はたくさんありました。書籍に留まらず、いろいろな所へも旅行し、忘れられない素敵な思い出になりました。

文学研究科 修士課程1年生
王 一さん



世界遺産都市研修2への参加体験談



ビスマルクプラッツにて



ドナウ川のほとりで

文学部 欧米言語文化学科 2 回生 武富 春香さん

私は 8 月から 9 月にかけての約 3 週間、ドイツ バイエルン州の都市、レーゲンスブルクに滞在しました。高校の授業でドイツ語の学習を始めて以来、ドイツを訪れることは私の夢の 1 つでした。ドイツ語の能力をより向上させたいと考えていたこともあり、この研修への参加を決めました。

レーゲンスブルクの旧市街には、大聖堂をはじめとして、様々な年代、建築様式の歴史的建造物が存在します。それらの建造物からレーゲンスブルクが歩んできた歴史を知ることができました。また、レーゲンスブルク大学でのドイツ語の授業を通じて、ドイツ語の語彙や表現の幅を広げることができました。

研修前に最も不安だったことは、拙いドイツ語でもきちんと伝わるかということでした。実際、伝えたいことが表現できずにもどかしい思いもしました。しかし現地の方々はとても優しく、私の拙いドイツ語にも耳を傾けて理解しようとしてくれました。また、本当に困った時には英語を使用して乗り切りました。

レーゲンスブルクでの充実した日々は素敵な思い出になっただけでなく、それ以降のドイツ語学習のモチベーションになりました。私は 2023 年度に中期留学する予定です。今回の経験を生かすとともに、ドイツ語の能力を伸ばすためにより一層努力していきたいと思います。

レーゲンスブルク大学中期留学への参加体験談

文学部 欧米言語文化学科 3 回生 三谷 由貴子さん



ドナウ川とレーゲンスブルク大聖堂を背景に



タンデムパートナーに連れて行ってもらった
グッゲンベルガー湖にて

幼少期にベルリンに 1 年間滞在した経験があり、現地で生活しドイツ語で話したいという想いから、レーゲンスブルク中期留学への参加を決めました。留学中、最も楽しかったのは、「タンデム」です。タンデムとは、互いに言語を教え合う言語交換のことを意味します。私は週に 1 回 2～3 時間、ドイツ人の女子学生とタンデムを行いました。日本の温泉文化や、バイエルン方言について教え合ったことが印象に残っています。

苦労したのは買い物と情報収集です。例えば、スーパーでは薄切り肉を置いていないので、スライスしてもらうよう頼まなければならなかったのですが、うまく伝えられないもどかしさを感じました。また、旅行に行った時、コロナワクチンの有効期間が各都市で異なるのを知らなかったため、危うく入市できなくなるところでした。旅行前に、そのような情報を調べておくべきだったと感じました。しかし、苦労した場面では必ず周囲の人々が助けてくれました。留学中の様々な経験を通して、まわりの人達に支えられて生きていることを改めて実感しました。

これから留学を考えているみなさん、言語の学習だけでなく、今すでにある出会い、そして新たな人との出会いも大切にして欲しいと思います。

留学生との交流ツアーが開催されました

留学生の皆さんに日本人学生と交流しながら京都の文化にふれることを通じて、日本での暮らしに慣れてもらうことを願い、国際センター及び京都府立大学後援会では国際交流事業を実施しています。

2022年12月2日(金)には、留学生との交流ツアーが開催され、留学生9名、日本人学生12名が参加しました。京都府立大学のバスに乗り、まず三十三間堂を訪れました。1,000体を超える仏像を目の当たりにして、外国人留学生のみならず、日本人学生も驚きの声をあげていました。

その後、三十三間堂近くの甘春堂で和菓子作りを体験しました。参加者は、職人さんから直接、作り方を丁寧に教えてもらい、お互いに交流しながら和菓子作りを楽しみました。外国人留学生と日本人学生が日本語や英語でコミュニケーションをとることができ、とても良い機会になりました。



在京都フランス総領事が本学を訪問されました



2022年11月21日(月)、在京都フランス総領事のジュール・イルマン氏が、Campas France フランス政府留学局・日本支局長のファニー・ドゥローム氏とともに本学を訪問されました。塚本学長らとの会談では、総領事から、フランスの大学との交流について、全面的に協力したい旨のご意向が示されました。塚本学長からは、これまでの本学とフランスの大学との交流を踏まえながら、今後も本学学生のフランス留学やフランス人留学生の受入を通じて、連携を深めたい旨をお伝えしました。



左から、フランス政府留学局・日本支局 アンスティチュ・フランセ日本本部関西オフィス担当 大八木美穂氏、Campas France フランス政府留学局・日本支局長 ファニー・ドゥローム氏、在京都フランス総領事ジュール・イルマン氏、塚本康浩 学長、山口美知代 副学長兼国際センター長、大島一正 准教授、古沢局長

発行日 2023年3月

発行責任者 国際センター長 山口美知代

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL: 075-703-5905 Email: kokusai@kpu.ac.jp